

バンコク日本人学校におけるタイ地方文化理解教育の実践 —小学部4学年「総合的な学習の時間」におけるタイ地方調べ隊（タイ）の実践—

前泰日協会学校バンコク校（バンコク日本人学校）教諭
宮城県栗原市立築館小学校教諭 大場 英昭

キーワード：在外教育施設、国際理解教育、総合的な学習の時間、バンコク、コロナ禍

赴任校の概要（2019年4月現在）

学校名・日本語：泰日協会学校バンコク校（バンコク日本人学校）

学校名・現地表記：THAI JAPANESE ASSOCIATION SCHOOL (โรงเรียนสมาคมไทย-ญี่ปุ่น)

UR：<https://www.tjas.ac.th/>

児童生徒数 小学部 2,101人 中学部 527人

1. はじめに

タイ・バンコクは、東南アジアの経済の中心であり、多くの日本人が生活している国・都市の1つである。このような地で、その地域の特色を感じ、異文化を受け入れ生活していくためには、在外教育施設において、積極的に異文化に触れる機会を多く設け、教育実践していく必要がある。多くの在外教育施設の中でも、最大規模の1つであるバンコク校小学部でも様々な活動に日々取り組んでいた。

しかし、2020年初頭から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により、新しい生活様式が取り入れられるようになり、これまでの教育活動もそれに追随し、中止や変更を余儀なくされた。2020年度は、家庭での在宅学習から始まり、7月からの分散登校、そして夏休みを挟んで9月からの通常登校（ソーシャルディスタンス）と目まぐるしく変化する生活に対応しながら、必死に教育活動を行っていた。総合的な学習の時間に限って言えば、毎年小学部で行っていた現地校との交流活動も中止となり、それに変わる教育活動を考える必要があった。

そのようなきわめて特異な環境の中でも、現地をとことん調べ、知り、その地域を愛する人になってほしいという願いをもち、総合的な学習を今一度見直し、計画し、実践した。

以下、その概略について紹介する。

2. タイ地方調べ隊（タイ）の実践

（1）小学部4年という位置での実践のための計画づくり

バンコク校小3年部の総合的な学習の時間においては、首都バンコク圏の自然や文化を理解するためのプログラムを実践している。また、同5年部の総合的な学習の時間においては、社会科の授業実践とも絡めながら、タイの産業（自動車等の工業、農業、水産業等）に焦点を当てた現地産業理解教育を行っている。

そのような中で、小学4年部として何を実践していけばいいのか、当時の4年部の先生方と話し合い、1つの方向性を決めることができた。それは、「タイ王国の地方についての自然や文化等について広く調べてみよう」ということである。また、実施については、通常登校開始の9月から週2時間程度で進め、12月の冬休み前までに、下学年向けの発表会を各学級で実施するという流れにした。

（2）授業実践1「タイ王国を5つの地方圏に分けて、それぞれについて調べる」（2020年9～10月）

まずは、タイ王国を、5つの地方圏に分けて、それぞれの地域にどのような自然や文化があるのか、児童が家族旅行等で行った体験を基に考えた。

<児童 A>「チェンマイに行った時にね。カオソーイっていうカレー味のラーメンを食べたよ。あれって、チェンマイの有名な食べ物なのかな」、<児童 B>「お父さんからタイの南部が危ないって聞いたことがあるけど、何が危ないのかよく分からない」などの意見が多く出された。そこで、児童を調べてみたい地方ごとに4~5人のグループにし、調べ活動を行うことにした。

調べ活動では、実際にその地に行ったことのある人（家族や友人等）からの情報提供や、昨年度バンコク校に導入されたタブレット PC による検索、図書館での関連図書を用いた調べ学習を行いながらそれぞれの地方についてまとめた。

コロナ禍という状況で、充実した調べ学習を行うことができるのか、指導者として不安もあったが、児童が実際にその場に行って確かめられない部分等については、インターネットで調べたり、現地で古くから生活しているタイ人の先生（タイ語の先生）に聞いたりしながら、調べることができたように思う。

(3) タイの5つの地方の特徴について

以下、児童が調べてまとめたものからの抜粋である。（諸文化等の解釈については、諸説ある点に留意）

① 北部

タイ第2の都市チェンマイがある。カオソーイなどの独特な食文化があり、傘を飾るポーサーン祭やロイクラトンなどのお祭りが有名で、多くの観光客が毎年訪れる。母親の実家が北部にある都市の児童もいて、最北のチェンライにある有名な寺院等について調べていた。

② 北東部

観光雑誌等では、イサーン地方に分類されることが多い北東部。ウドンタニーなどの都市があり、バンチェン遺跡（世界遺産）やタレーブアデーン（赤い蓮の海）などの観光地が有名である。古くからクラムという植物を用いた藍染めなどの手織り布があり独特の雰囲気がある。ソムタムと呼ばれるパパイアのサラダなどに代表される食文化もタイ人に愛されてやまない。

③ 東部

タイ王国の首都バンコクから車で約2時間の観光都市パッタヤーがある東部。美しい自然が広がるラヨンやサメット島に首都バンコクから気軽に行くことができるので、とても人気がある。また、チャーン島等では、未開発の部分が多く、珍しい昆虫を捕獲できるポイントも点在している。

④ 中部

タイ王国の首都バンコクがある中部。バンコクの人口800万人以上である。都市圏の人口は1600万人を超えており、世界有数の大都市圏を形成している。さらに、バンコクには、多くのレストランや屋台があり、タイ国内や世界中のおいしい料理を食べることができる。また、ミャンマーとの国境付近に位置する都市カンチャナブリーでは、エラワン国立公園内にあるエラワンの滝が有名で、近年は、インスタ（SNS）映えスポットとして多くの観光客が足を運んでいる。

⑤ 南部

美しい海岸が広がる観光地プーケットや、バックパッカーの聖地とも言われるサムイ島、クラブ等があるタイ南部。南部独特の海鮮料理が人気である。また、マレーシアとの国境付近のナラティワートやヤラー、ソクラー等の深南部は、イスラム武装勢力による襲撃や爆弾事件が頻発しているため、外務省の危険情報でも特に危険レベル（レベル3）が高いとされている地域（2021年7月現在）である。

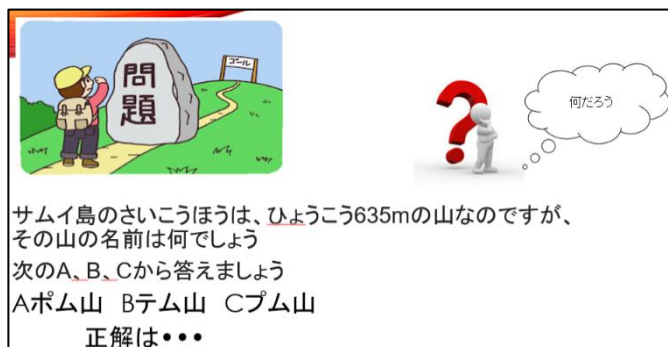
(4) 授業実践2「タブレットPCを活用した授業実践」(2020年11月～12月)

①まとめ(11月)

授業において1人1台タブレットPCを活用できることから、まとめの段階においてもそれを活用しながら、授業を進めた。具体的には、各人が調べて分かったことをタブレットPC内に入っているプレゼンテーションアプリにまとめていく作業である。項目立てや掲載する写真の吟味もその都度メンバーで確認したり、メンバーで確認できない部分や分からない部分については、担任に聞いたりしながら、細かい点にも注意を払いながら、まとめ作業を行った。

②発表の準備(11月～12月)

ある程度プレゼンテーションアプリを使いまとめられたものは、その後、それを基に発表資料になるように、それぞれのスライドに書かれている文字の修正やアニメーション効果を入れる等の作業を行った。また、その作業と並行して、発表原稿作りも行った。



児童が作った発表資料より

最後にプレゼンテーションアプリで作ったアニメーション効果ありのスライドと、発表原稿を合わせての練習会を数回行った。また、その練習会の様子は、発表時に使用しない児童のタブレットPCで録画し、練習後、それを視聴し、スライドや原稿の手直しを行った。具体的な修正の例としては、スライドに多くの文字を入れすぎて読みづらかったものを短い文に置き換えたり、説明だけの発表だと飽きてしまうので説明の間にクイズを入れたりなど工夫した。

③発表会の実施(12月)

12月、タイ国内での新型コロナウイルス感染者の増加が続くようになり、授業の打ち切りも考えられることから、すべての授業をできる限り早く終わらせるように準備を進めながらの中での総合的な学習の時間の発表会だった。スライドを操作する人、発表原稿を読む人、時間を計測する人等の役割分担を大急ぎで決めて、慌ただしい中での発表会になったが、一人ひとりの児童にとって達成感を多く感じ取ることができたように思う。聞き手として参加した3年生児童の感想も肯定的な受け止め方をしているものばかりだった。3年生からもらった感想を読みながら笑顔を浮かべる子ども達は、3年生からもらった感想カードの裏に「ありがとう」のメッセージを書いて、後日渡していた。

④発表会を終えた児童の感想から

以下に、発表会後の児童の感想を数点紹介する。

<児童C>

2学期の総合的な学習の時間では、タイの地方調べをしました。私は、北東部グループで、伝統文化について〇〇ちゃんといっしょにしらべました。私は、キャンドルフェスティバルについて調べました。タイ地方調べで一番楽しかったことは、スライド作りです。スライドを初めて自分で作ったので、最初は、少し難しかったです。でもだんだんやっていくうちに、早く打てるようになったのでパソコンが好きになりました。

本番では、鳥肌が立つほど緊張しました。本番途中で他のクラスの子が来て途中で中断し4-1に移動したのでその時は、びっくりしました。スライドが少し話す人と、ずれてしまったので3年生

に分かりやすく発表出来たか心配でした。その後、3年生から感想シートが届きました。それをグループで見ていると、みんないろいろ気づいたことをメモしたり、感想で楽しかったと書いたりした子もいました。発表で心配なこともあったけど3年生が楽しんでくれる発表ができてよかったです。

<児童D>

2学期の総合はタイの東部調べをしました。最初は、産業を調べていましたが、その中から、最終的には観光に絞って調べ活動をしました。PowerPoint（パワーポイント）を使って、まとめるのは難しかったです。東部のメンバーと一緒にスライドをつくって楽しかったです。

また、発表をするときの声や姿勢、表現もいっしょに考えました。そして、本番は、面白い素敵な発表ができました。〇〇さんや〇〇さんが、クイズのときにその場で考えたヒントを出していて感心しました。2学期の総合はとても楽しかったです。

3. 授業実践記録としてのスライドの公開について

冒頭でも触れたように2020年度は、コロナ禍による新しい生活様式での学校再開ということで、それまでに普通に行われていた授業参観等の授業実践を、保護者の方に見て頂く機会が全く無くなった。

我が子が、授業を頑張って受けている姿を見たい親の気持ちを考えたときに、ふと浮かんだのが、出来上がったスライド約136枚のデータの公開である。元々、バンコク校では、5月からの家庭在宅学習で用いたグーグルのクラスルームがあり、それを活用し、データを公開することにした。

そして、データ公開から1ヶ月後の2021年1月の下旬、またもやコロナによりロックダウンし、在宅学習を行っていた児童の保護者からメールが届いた。

以下はそのメールの内容の抜粋である。

大場先生へ

〇〇（児童名）の母です。先日、〇〇（児童名）が総合の時間に作ったスライドを見せてもらいました。〇〇（児童名）は、それを見ながら本番さながらに自分が発表した部分を再度家庭で再現してくれました。とっても感動しました。コロナ禍で再度のクラス替えですが、先生のクラスで楽しかったようです。2月からは別のクラスになりますが・・・、(略)



児童が作った発表資料の表紙より

4. 最後に

在外教育施設派遣教員として3年間バンコク校に通う中で、多くの人々の助けがあった。特にコロナ禍での授業実践は、毎日が新しいことの連続で、その都度対応しながら実践を続けてきたように思う。

2020年度は、コロナ禍により無くなったものも多々あることは間違いないが、新しい生活様式からも分かるように新しい試みがなされた年でもある。学習の方法を変更したり、人との関わり方を工夫したりする中でこれまでにない創造的な授業実践を行えたように思う。

今後も子ども達がより学びやすい環境をどのように実践させていけばいいのか多くの先生方と考えながら、

よりよい授業のあり方を見つけていきたいと考える。